

---

# VANQRAT

ねずみ無善

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

VANQRAT

### 【Nコード】

N2467Y

### 【作者名】

ねずみ無善

### 【あらすじ】

「吸血鬼」それは、人の血を吸う「化け物」。その化け物はこう呼ばれる。

「ヴァンパイア」そしてその化け物は人の血をすうだけでなく、その血を吸われた人をも化け物とする。「クローンアンデット」・・・これが血を吸われた人間がなる醜い生き物だ。

そのクローンアンデットは殺人衝動に襲われる。さらに厄介なのがクローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手のつけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている。

だが、そのクローンアンドेटに唯一対抗できる生き物がいる。その名は「吸血人」そしてその吸血人は聖職者にこう呼ばれる・・・「ドラキュラ」と・・・

## 最後の始まり（前書き）

どうも、はじめましてnezumimuzenです

今回、初めての投稿だったので誤字脱字がたくさんあると思います  
すみません・・・以前から、ずっと自分の小説を書きたいなあ  
思っていました、よろしく願います

VANQRAT はじまりはじまり〜

## 最後の始まり

「吸血鬼」それは、人の血を吸う「化け物」。その吸血鬼はこう呼ばれる。

「ヴァンパイア」そしてその化け物は人の血をすうだけでなく、その血を吸われた人をも化け物とする。「クローンアンデット」・・・これが血を吸われた人間がなる醜い生き物だ。

そのクローンアンデットは殺人衝動に襲われる。さらに厄介なのがクローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手のつけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている。

だが、そのクローンアンデットに唯一対抗できる生き物がいる。その名は「吸血人」そしてその吸血人は聖職者にこう呼ばれる・・・「ドラキュラ」と・・・

・・・2011年10月7日午前0：00分・・・

豪雨の中、一筋の稲光が、とある教会に舞い降りた。その稲光の中に一人の男が立っていた。

その男の顔は、よくは、見えないが身長2メートルもありそうな長身で、何よりも稲光の中からちらつかせて見える白髪が、目立った一言で怪しいとしか言いようのない男だった。

男は、独り言をつぶやいた 「百回目・・・」

最後に男は、頬に一筋の涙を流し悔しそうに言った。「もう、あとが・・・ない」

・・・2011年10月7日午後14：10分・・・

「夜にあつたつて言う大雨は、やんだみたいだね」教会近くの公園に一人の男の子が通っている。（今は、独り言）その男の子の言うように、豪雨はすっかりやみ、うそのように晴れていた。

男の子は、どうやら教会に行くようだ。 教会の門に白髪男がいた。

すると男の子は、白髪男の顔を見て、小首をかしげた。

「?、お兄ちゃん、前にどこかで会った?」

「!!!!!!」

白髪男が、ハツとした

「ねえ、答えてよう」

「.....」

白髪男は、答えようとしない

男の子はため息をついた後

「おはようございます。新しく入った教会の方ですか?」

男の子は、丁寧に挨拶をした

「僕ね、おかあさんのお墓参りに来たの」

「.....」

それでも白髪男は黙ったままだ

男の子はまたため息をついて教会へ入っていった

.....2011年10月8日 午後11時12分.....

都内の会社に眼鏡をかけた男がいた

その男は写真を眺めた、その写真には昼にいた男の子とその男がうつっていた

そしてもう一人の女性が移っていた

男は、涙を流した

.....2011年10月9日 午前8時26分.....

『次のニュースです』

どうやら朝のニュースのようだ

『元軍人の中田吉野さんが、本日、血まみれの状態で都内の公園で倒れていました。吉野さんは、「恐ろしい、ゾンビを見た、殺され

る」といつて都内の病院に搬送されましたが、まもなく死亡しました。続いてのニュースです・・・』

・・・2011年10月9日 午後1時46分・・・

教会への歩き道

「ねえパパ、教会に新しいお兄さんが来たんだよ、まあ、前にいたお兄ちゃんは今、どこかに行っちゃったみたいだから、結局また一人だけだね」

昨日の子供だ

「そうなのか・・・」

どうやら昨日の夜のめがねをかけた男はこの子の父親のようだ  
今日もまた教会の門の前にその白髪男がいた

男の子は、はっとした

「あっ、そういえば昨日お名前を言い忘れちゃった」

男の子は、白髪男の前に駆け寄り

「おはようございます！」と元気に言った。

「昨日は、言いそびれちゃったけど・・・僕の名前は、由羽 葵 由  
羽」

## 最後の始まり（後書き）

どうでしたか、楽しんでいただけたらとても光栄です。最初は、世界観がつかめないかもしれないかもしれませんが、だんだん慣れてくると思います。不定期投稿なので続編は、もっと時間を……すみません

by nezumimuzen



## 小さな真実（前書き）

どうもっ

ねずみ無善です

改名いたしましたっ。今回は、VANQRAT第2話。ぜひ楽しんでみていってください

まあ投稿した11月20日現時点では、誰も見ていないですけどねっ！

では、VANQRAT第2話「小さな真実」始まり始まりっ

## 小さな真実

「僕の名前は、由羽 葵 由羽」

その瞬間、ひととき強い風が吹いた

「お兄ちゃんのお名ま・・・」

お兄ちゃんのお名前はと聞こうとしたが父親に口を押さえられてしまったようだ

「こら！知らない人に勝手に自分の名前を言うんじゃない！」

なぜだか相当怒っている

「何で？」

「ダメと言ったらダメだ！」

由羽はあきらめてお母さんのお墓に父と二人で向かった。

そのとき父親は、最後まで白髪男に攻撃的で、にらんだりしていたそのとき白髪男は、少し残念そうな顔をしそのままずっと教会の門に立っていた

・・・2011年10月10日 午前8時3分・・・

静まり返った商店街の電気屋の前に白髪男が立っていた

『今日のニュースです』

また、昨日と同じニュース番組のようだ

『本日未明昨夜死亡した中田吉野さんと同じように都内の公園で桜美智子さんが血まみれの状態で倒れていました。警察は、これを通り魔の犯行と見ており住民に警戒を取るよう・・・』

そしてまた、昨日と同じニュースのようだ

これを見た白髪男は、独り言をつぶやいた

「ちがうよ・・・これは、クローンアンドेटトの仕業だよ、そしてクローンアンドेटトは、

由羽の父親だよ・・・」

そう、誰も聞こえない声でつぶやいた

・・・2011年10月10日 午後2時34分・・・

由羽が、何かを楽しみそうに教会への道を駆けていた

「パパには、昨日ダメだって言われたけどやっぱりあのお兄さんと仲良くなりたい！」

と息を切らせながら教会についた。やはり教会の門には白髪男が立っている

「お兄ちゃん、お名前は？」

「・・・」

そんな由羽の気も知らず男は黙ったままだ

由羽はこの、名前をひたすら聞く作業を6日間もずっと続けたのだ  
った・・・

そしてそれと同じように毎日のように『通り魔』のニュースが報道されていたのだった

・・・2011年10月16日午後3時14分・・・

「ケホツケホツ」

「どうした、由羽風邪でもひいたか？」

由羽の父親が教会への通り道に由の風邪に気づき由を家に帰らせた  
その帰り道、由羽の父親は、由羽にこんなことを聞いた

「それより、あの怪しい白髪の男は、まだ教会の門にいるのか？」

「うん」

「そうか」

そう言っで由羽を家に残し教会に行った

・・・2011年10月16日午後4時26分・・・

教会には、いつものものように白髪男が立っていた

そしてさらにそこに由羽の父親も

「もう正体を出してください」

最初に切り出したのは白髪男のほうだった

「……」

父親は静かに白髪男をにらむ

「そうですか……そうですね。」

最初はやさしそうな口調だったが

「俺はおめえたちの天敵だもんなあ、にしても残念だ

また由羽を悲しませることになっちまう。」

と、いきなり恐ろしい口調になった

「まあどうしたって変えられねえ運命つてもんもあんだ」

「キリッ」

さあ、雑談もなんださっさとけりを付けようじゃないか

なあ パパさん？」

父親は、次第に今までのにらみと一段も二段も違う顔で話を聞くようになった

だが一瞬白髪男は、きつと助けて見せますと空気すら動かない口調で言いその後白髪男は、ニイッと笑った。その口には、人とは思えないほどの、鋭い牙が光っていた

そしてその牙で父親に襲い掛かった

## 小さな真実（後書き）

ええ

タイトルと内容のつながりはこれからじょじょに分かってくると思いますので楽しみにしてください

今回も誤字脱字たくさんあったと思います。

それでも読んでくださりありがとうございます

何度も言うように不定期投稿なので話はいっ出来るか、わかりません

それでもぜひ話を見てください！

さようならっ！

ねずみ無善

## クローンマンデミックとゾリキユラの(前書き)

3話は、とうとう題名のとうりクローンマンデミックとゾリキユラの  
秘密について紹介します

どうぞ楽しんでみていってください

## クローンアンデットとドラキュラ

・・・2011年10月16日午後4時34分・・・

教会の前に二人の男が立っていた

一人はいつのも白髪男もう一人は、一般的なサラリーマン  
すると白髪男がニッと笑った

その笑みの中に鋭い牙が光っていた

と思うと白髪男はサラリーマンに襲い掛かった

・・・  
・・・  
・・・

今のところ分かるクローンアンデットの情報は

クローンアンデットは殺人衝動に襲われ

クローンアンデットは、人間の武器が効かないほどの防御力、手の  
つけようがないほどの攻撃力を兼ね備えている  
と言うことだ

そして今新しく分かったクローンアンデットの情報は

クローンアンデットには

ノーマル

セカンド

サード

が、あることだ

ノーマルは、人間の皮をかぶりクローンアンデットとしての力を最  
小限に抑えた状態

セカンドは、ノーマルの状態から一部を開放した状態。このとき開

放した部分の皮は殺した者の皮で補う

サイドは、クローンアンデットの最終形体。この時点で体のセーブは全て解除され人間としての皮は破け散り真の姿を見せる  
ここまでは、今クローンアンデットの分かる情報だ

.....

そして今のところ分かるドラキュラの情報を説明しよう

ドラキュラはクローンアンデットに唯一対抗できる生き物  
これだけだ

だが、新たに分かった情報がある

ドラキュラはクローンアンデットの天敵ではあるが別に殺すわけでは無い

逆にクローンアンデットを救うのだ

しかしドラキュラにも救える範囲がある

ドラキュラの救える範囲は

クローンアンデットがまだノーマルのときだけだ

いや、完全に救えるのは、

ノーマルのときだけ、

セカンドでの救える

サイドでは救えない

ドラキュラはまだ、血を吸われた人間の皮がついている状態なら救える

セカンドでも開放した部分は救えないがそのほかの部分は救える

サイドは救えない

まあそれでも救える範囲は、広い

だが、救うにも、条件がある

それは、ドラキュラが、血を吸われた人間の血を吸わなければいけないということ

聞く側としては簡単なことかもしれないが



これは意外に難しいのである  
クローンアンデットの血をすえる範囲は、首筋のみ  
更にクローンアンデットは、自分の首筋を守る本能が付いている  
だからクローンアンデットを救うのはとても難しいのだ  
そしてここまでが今分かるドラキュラの情報だ

.....

話は戻る

白髪男がサラリーマンに襲い掛かった

サラリーマンは、当然由羽の父親だ

白髪男は、由羽の父親に襲い掛かっているのだ

いや、首筋を狙って

だが、これを由羽の父親葉すばやくかわす

そしてかわした拍子には由羽の父親はいわいる裏拳を繰り出す

だがこれを白髪男はかわしまた首筋を狙って攻撃する

これをまたかわし今度はけりを繰り出す由羽の父親

このような作業

否、殺し合いがしばらく続いた

とうとう仕方なく白髪男も攻撃に入る

隙を見て救おうという寸法だ

だが、白髪男の攻撃が、強すぎたせい

か  
由羽の父親がとうとう

セカンドにいたった

これを見て白髪男は、小さな声で、畜生と言った

## クローンアンデットとドラキュラ（後書き）

由羽の父親がとうとうセカンドにいたってしまいました！

これからどうなるのでしょうか！（自分で言うことじゃないでしょ）  
次話を楽しみにしてください！

後、6番目の魔王も

では、

by ねずみ無善

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2467y/>

---

VANQRAT

2011年11月26日23時55分発行